



及川 富禎さん(79)  
憲子さん(76)

＝水沢区真城字中平＝

この3月で結婚56周年を迎える及川富禎さんと憲子さん夫妻。水沢区真城で農業を営んでいます。

真城水稻採種圃生産組合や婦人会など地域の役員を数多くこなしてきた二人は、いろいろやってこられたのも夫婦で協力してきたからだと言います。今も、産直来夢くん出荷者協力委員会の役員や、味噌作りを行うやまぶきの会の会長などを務める憲子さん。

## 雨の日も晴れの日も 30

●どんなときも一緒に素敵な夫婦を紹介

富禎さんは「いろいろな役員のほか、家のことも頑張っている。無理しないで」といたわります。憲子さんも活動の機会を与えてくれ、支えてくれる富禎さんに「頼りにしています。健康でいてほしい」と感謝します。

オープン当初から関わっているという産直来夢くんには、二人で協力して、夏は主にエダメやナス、冬はホウレンソウを出荷しています。「出荷する人はまだまだ募集中。もっと若ければいろいろやるんだけど」と少し残念そうな憲子さんです。

二人はグリーンツーリズムにも積極的に参加中。こしも春から受け入れ予定で「帰るころになると、最初静かだった男の子は慣れてきて元気に、女の子は情が移って泣いてしまう」という学生たちとの交流が楽しみだそうです。にぎやかな季節がまた、二人の下に訪れようとしています。



菊池 みずき さん  
(江刺区・木細工小学校6年)

Interview

## 夢トーク 66

### 将来の夢は「保育士」

——学校での役割は？

児童会長です。朝の放送で、下校時間や全校活動の内容などの1日の予定をお知らせしています。

——普段どんなことをして遊んでいますか？

縄跳びです。朝、授業が始まる前にやることが多いです。学校のみんなでやっています。

——小学校生活の思い出は？

※白秋献詩で入賞して、福岡県柳川市に3回招待されたことです。6年生の時の入賞作では、ことし木細工小から中学生にな

※白秋献詩…福岡県柳川市が同市出身の詩人・北原白秋にちなんで開催する詩のコンクール

るのは私1人なので、その進学の期待や不安を詩にしました。

——中学校へ進学したら、やってみたいことはありますか？

バレエ部に入りたいです。

——将来の夢を教えてください。

保育士です。妹と遊ぶうちに小さい子が好きになり、保育所の運動会の手伝いをしたことがきっかけで、保育士になりたいと思うようになりました。

——夢を叶えるために、頑張っていることは何ですか？

妹の髪を結んであげたり、着替えを手伝ってあげています。

## 青春讃歌 30

### 水沢高等学校 文芸・短詩部

◎部員数 19人

◎顧問 小笠原 祐子 先生

黄金崎 舞 先生

◎部長 佐々木 桂子 さん(2年)

高橋 綾 さん(1年)



### 文芸と俳句の大会目指し 推敲を重ねる日々

平成23年に文芸部と短詩同好会が1つになり今の形となった、水沢高等学校文芸・短詩部。1つとなってもそれぞれの目標を掲げ、頑張っています。

男子1人、女子13人からなる文芸部をまとめるのは、佐々木桂子さん。本好きの仲間が集まったという文芸部では、小説や詩など、部員が執筆した作品を掲載する部誌の作成が活動の中心です。佐々木さんは「全国高等学校文芸コンクールの部誌部門で優良賞を受賞できて満足だが、批評を元に改善していきたい」と更なる上位を目指します。顧問の黄金崎先生は「県コンクールでは多くの部員が入賞できた。来年度も頑張してほしい」と期待を寄せました。



部誌の編集風景

短詩部は男子3人、女子2人の1年生5人で俳句中心に活動しています。入部するまで俳句との関わりが薄かったという5人ですが、3年生が出場した大会を見て、意識が変わってきたといいます。上達のため、「多作多捨を心掛けています」と語る部長の高橋綾さん。11回連続出場中の松山俳句甲子園にことしも出場することを目指し、外部から指導者を招いて句会を開くなど、努力を重ねています。顧問の小笠原先生も「俳句を面白く思い始めている。全国の高校生と交流してほしい」と応援します。

来る4月、文芸・短詩部では、男女を問わず多くの新入生が入部することを心待ちにしています。



俳句を互いに鑑賞・推敲



春の訪れが待ち遠しいです

が、いかがお過ごしですか。

2月20日、奥州市誕生10周年を迎え式典を開催しました。

本市は、旧5市町村が育んできた歴史と文化の尊重と地域

資源を宝物として、多くの皆さまのご協力を得ながら、ま

ちづくりを進めてまいりました。

た。「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち」の実現

に向かって、一歩一歩着実に

向かっていることは、皆さま

の支えがあったればこそと、

心から感謝と御礼を申し上げます。

この節目を機に、〃幸

せを実感できるまち奥州市〃

を確固たるものとするため、

皆さまと手を携え共に行動し、

次の10年を力強く歩んでいく

ことを決意いたします。

市は2月1日に、来年度から

地区センターに指定管理者

制度を導入するため、16の地

区振興会と基本協定を締結しました。市が目指す協働のま

ちづくり「第二ステージ」を前進させるうえで重要な意義があると思います。市としてもなお一層地域の支援体制を強化し、これまで以上の連携を図りながら協働のまちづくりを進めてまいります。

2月6日に東京都内で、南

部鉄器などの工芸品と茶を組

み合わせたセット商品の記者

発表を行いました。これは、

本市、秋田県仙北市、静岡県

掛川市、岐阜県多治見市の4

市が構成する「茶文化プロ

ジェクト事業」の一環として

行ったものです。商品は、食

環境プロデューサーの木村ふ

みさんが監修したもので、1

セット7万4千円、88セット

の限定品です。今後4市で

知恵を出し合い、茶文化を情

報発信してまいります。

2月に、奥州前沢劇場、奥

州胆沢劇場を鑑賞しました。

舞台を創り上げられたキャス

ト、スタッフの情熱と努力に

心より感謝申し上げます。感

動をありがとうございます。

奥州市長 小沢昌記